

令和7年3月28日

福島大学金谷川キャンパスの自然と歴史を紹介する 看板を設置しました

福島大学食農学類の藤野正也准教授が代表を務めるプロジェクト研究所「金谷川キャンパス生物多様性保全・活用研究所」は、2025年3月11日に本学金谷川キャンパスの自然と歴史を紹介する看板を学内に設置しました。看板ではキャンパス内の生物多様性やキャンパスを利用した研究を紹介するほか、キャンパスに鎮座する「はっつけ地蔵」の紹介や、大学周辺の古道を紹介しています。

本学食農学類の藤野正也准教授が代表を務めるプロジェクト研究所「金谷川キャンパス生物多様性保全・活用研究所」は、2025年3月11日に福島大学金谷川キャンパスの自然と歴史を紹介する看板を本学フクニチャージ図書館前の松林に設置しました。

もともとこの場所には福島大学の地名を「松川町浅川字直道」から「金谷川」に変更したことによって消滅した字名を解説する看板が設置されていましたが、経年劣化により印字等が不鮮明となっていました。

キャンパス内には多くの生物が生息していることが調査によって明らかとなっており、環境省や福島県のレッドリスト掲載の維管束植物が8種、チョウ類が2種、鳥類が2種確認されていますが、このような情報は学生や教職員には周知されていません。そこで看板ではキャンパス内の生物多様性を重点的に紹介することとなりました。さらに、より詳細に知ってもらい、より生物に関心を持ってもらえるよう生物調査の結果を記した論文へのリンク（QRコード）を掲示しました。また、看板を設置した松林内で行われている研究も紹介し、キャンパスがどのように研究に活用されているかを広く知ることができます。

さらに、看板を設置した松林内に鎮座する「はっつけ地蔵」や大学周辺の古道についても近年になって研究が行われたことから、これらの研究成果へのリンク（QRコード）も掲示し、生物多様性に留まらず、金谷川キャンパスの歴史にも親しんでいただけるような内容となっています。福島大学にお越しの際は、ぜひご覧下さい。

金谷川キャンパス生物多様性保全・活用研究所とは
 福島大学内に設置されたプロジェクト研究所（研究グループ）。2024年4月に設置。食農学類、共生システム理工学類、環境放射能研究所の8名で構成。金谷川キャンパスの生物多様性を維持し、教育活動や研究活動に活用することを目的としている。

■設置した看板



金谷川キャンパスの自然と歴史の物語

金谷川キャンパスの生物多様性

1979年に金谷川キャンパスができる前は、この地は前記民家のコナラ林やアカマツ林が広がっていました。置山にキャンパスを造ったことから、金谷川キャンパスでは多様な動植物が観察されています。

植物種では約500種の維管束植物の存在が確認され、その内の8種が環境省または福島県のレッドリストに掲載されています。昆虫種はチョウ類、トンボ類、セミ類、ツシムアザガシなどが確認され、福島県レッドリストに掲載されているタビドリシジミのほか、保護種レッドリストに掲載されているオオムギヤクも確認されています。

鳥類種では97種が確認され、キャンパス内でハタカ（福島県レッドリスト掲載）やサシバ（環境省レッドリスト掲載）の観察も確認されています。

出典
 高次英典、鎌倉伸彦（2010）「福島大学金谷川キャンパスの生物多様性とその保全策」『福島大学地域誌』22（1）、103-128。
 福地直樹（2019）「福島大学金谷川キャンパス内の植物群集」『福島大学地域誌』2019（1）、103-128。
 福地直樹（2014-2015）『金谷川キャンパス内植物の観察記録』『福島大学地域誌』19（1）、89-105。

図書館前の松林

図書館前のアカマツ林は、福島大学がこの地に移転する前の環境が残されています。シンラン、シモンラン、クマガヤツなどの草が生え、下草刈りによって生物多様性が維持されています。また、この松林を境としてランミモグリハエ（ランに寄生して種子を食べるハエ）の研究が行われています。



生物多様性保全制度

このような生物多様性を保全するために、福島大学では2010年度から絶滅危惧種などの生態系保全を行っています。



はっつけ地蔵

アカマツ林の中に祀られている4体の石仏は、「はっつけ地蔵」や「はりつけ地蔵」とよばれています。名前の由来は確認ありませんが、正確にはわかりません。

4体の石仏はそれぞれが仏の顔をしています。

- ① 蓮華座に合掌地蔵、蓮華座の下には五足の合盤、首にセメントを用いた補修痕があり、顔と手足で材質が異なる。
 ② 立像レリーフ、右手に蓮華、左手に宝珠、自然石台座、台座との間にセメント、首面に釘。
 ③ 各単立像レリーフ、台座は石と同様に、首面に釘。
 ④ 合掌立像レリーフ、台座は石、石仏は土、土はよくおろく基礎。
 ⑤ ③は、光緒5（1692）年にくわんをたてられ男女のために、没後240年の時を認め昭和19（1944）年に建立されました。⑥は他2体より小さく、⑥が最も古いものと推測されます。

出典
 経堂謙二（2011）「はっつけ地蔵の謎に迫る」『福島大学食糧科』第2号

福島大学周辺の古道

福島大学キャンパスの北西付近から尾根状に東北新幹線トンネル出口付近まで続く古道があります。この古道は、かつては中世の東北の交通路として重要な役割を果たしていました。古くは「山道」とも言われ、大学移転前の利用は、はっつけ地蔵を通り、今の食農学類棟と環境放射能研究所の間を抜け、道の車庫脇の小道に落ちた道が確認できます。また、東大に近く、あるいはその一部が古くも確認されています。文治5（1189）年の奥州合戦からついでに奥州の戦いから逃げたと考えられる、源義経の道、道行や一途も通ったかもしれない歴史に思いをはせながら、古道を散策してみてください。

出典
 長岡一（2015）「福島大学の古道」『福島大学食糧科』第4号
 岡田一（2024）「福島の中世を探訪する」『大学の福島ガイド』刊行予定

■ 看板の詳細

金谷川キャンパスの自然と歴史の物語

金谷川キャンパスの生物多様性

1979年に金谷川キャンパスができる前は、この地は薪炭用のコナラ林やアカマツ林が広がっていました。里山にキャンパスを造ったことから、金谷川キャンパスでは多様な動植物が観察されています。

植物相では約500種の維管束植物の自生が確認され、その内の8種が環境省または福島県のレッドリストに掲載されています。昆虫相はチョウ類、トンボ類、セミ類、ツノトンボ類が90種確認され、福島県レッドリストに記載されているクロミドリシジミのほか、環境省レッドリストに記載されているオオムラサキも確認されています。

鳥類相では97種が確認され、キャンパス内でハイタカ（福島県レッドリスト掲載）やサンバ（環境省レッドリスト掲載）の繁殖も確認されています。

出典

黒沢高秀、壺忠顕、菊池壮蔵（2010）「福島大学金谷川キャンパスの生物多様性とその保全策の提言」『福島大学地域創造』22（1）、103-128。

壺忠顕（2019）「福島大学金谷川キャンパス内の蝶類群集、2008年と2015年の比較：2014-2015年金谷川キャンパス内除染の影響評価」『福島大学地域創造』31（1）、89-105。



オオムラサキ
 環境省レッドリスト
 準絶滅危惧



キイトンボ



キバネツノトンボ



ホクリクムヨウラン
 福島県レッドリスト
 絶滅危惧II類



キンラン
 環境省レッドリスト
 絶滅危惧II類



ハイタカ
 福島県
 レッドリスト
 準絶滅危惧



サンバ
 環境省
 レッドリスト
 絶滅危惧II類

はっつけ地蔵

アカマツ林の中に祀られている4体の石仏は、「はっつけ地蔵」や「はりつけ地蔵」とよばれています。名前の由来は諸説ありますが、正確にはわかりません。

4体の石仏は向かって左から次の通りです。

- 蓮華座に合掌座像。蓮華座の下には方形の台座。首にセメントを用いた補修痕があり、頭と胴とで材質が異なる。
- 立像レリーフ。右手に錫杖、左手に宝珠。自然石台座。台座との間にセメント。背面に刻字。
- 合掌立像レリーフ。台座は②と同様。背面に刻字。
- 合掌立像レリーフ。自然石台座。石仏はすこし傾く。おそらく墓碑。

②、③は、元禄5（1692）年に亡くなったそれぞれ男女のために、没後240年の時を経た昭和9（1934）年に建立されました。①、④は他2体よりも古く、①が最も古い石仏と思われます。

出典

難波謙二（2011）「はっつけ地蔵の謎に迫る」『福島大学貴重資料集』第2号



図書館前の松林

図書館前のアカマツ林は、福島大学がこの地に移転する前の環境が残されています。ギンラン、シュンラン、ウメガサソウなどの草が生え、下草刈りによって生物多様性が維持されています。また、この松林を使ってランミモグリバエ（ランに寄生して種子を食べるハエ）の研究がおこなわれています。



ギンラン
 福島県レッドリスト
 準絶滅危惧



シュンラン



ランミモグリバエ
 （成虫）

生物多様性保全制度

このような生物多様性を保全するために、福島大学では2010年度から絶滅危惧種などの生息場所を保全しています。

設置 金谷川キャンパス生物多様性保全・活用研究所

福島大学周辺の古道

福島大学キャンパスの北西付近から尾根伝いに東北新幹線トンネル出口付近まで続く古道があります。本学の小林清治名誉教授は中世の「奥大道」の一部と比定しました。古代の「東山道」とも重なります。大学移転前の地形図では、はっつけ地蔵を通り、今の食農学棟と環境放射能研究所の間を抜け、奥の駐車場脇の小道に続いた道が確認できます。奥大道に続く道、あるいはその一部だった可能性もあります。文治5（1189）年の奥州合戦の一つである石那坂の戦いもこの地で行われました。源義経や頼朝、西行や一暎も通ったかもしれない歴史に思いをはせながら、古道を散策してみたいかがでしょうか。

出典

阿部浩一（2015）「福島大学周辺の古道」『福島大学貴重資料集』第4号



阿部浩一（2024）「福島の中世を探索する」『大学的福島ガイド』昭和堂

（お問い合わせ先）

食農学類・准教授 藤野正也

電話：024-548-8432

メール：fujino@agri.fukushima-u.ac.jp